

4日 木曜

列王 I

1:38 そこで、祭司ツァドク、預言者ナタン、エホヤダの子ベナヤ、それにクレタ人とペレテ人が下って行き、ソロモンをダビデ王の雌ろばに乗せ、彼を連れてギホンへ行った。

1:39 祭司ツァドクは天幕の中から油の角を取って来て、ソロモンに油を注いだ。彼らが角笛を吹き鳴らすと、民はみな、「ソロモン王、万歳」と言った。

1:40 民はみな、彼の後に従って上って来た。民が笛を吹き鳴らしながら、大いに喜んで歌ったので、地がその声で裂けた。

1:41 アドニヤと、彼とともにいた客はみな、食事を終えたとき、これを聞いた。ヨアブは角笛の音を聞いて言った。「なぜ、都で騒々しい音がするのか。」

1:42 彼がまだそう言っているうちに、祭司エブヤタルの子ヨナタンがやって来た。アドニヤは言った。「入れ。おまえは勇敢な男だから、良い知らせを持って来たのだろう。」

1:43 ヨナタンはアドニヤに答えた。「いいえ、われらの君、ダビデ王はソロモンを王とされました。」

1:44 ダビデ王は、祭司ツァドク、預言者ナタン、エホヤダの子ベナヤ、それに、クレタ人とペレテ人をソロモンにつけて送り出されました。彼らはソロモンを王の雌ろばに乗せ、

1:45 祭司ツァドクと預言者ナタンが、ギホンで彼に油を注いで王としました。こうして彼らが喜びながら、そこから上って来たので、都が騒々しくなったのです。あなたがたが聞いたあの物音がそれです。

1:46 しかも、ソロモンはすでに王の座に就きました。



1:47 そのうえ、王の家来たちが来て、『神がソロモンの名をあなたの名よりもすぐれたものとし、その王座をあなたの王座よりも大なるものとされますように』と、われらの君、ダビデ王に祝福のことばを述べました。すると、王は寝台の上でひれ伏されました。

1:48 また、王はこう言われました。『イスラエルの神、【主】がほめたたえられるように。主は今日、私の王座に就く者を与え、私がこの目で見えるようにしてくださった。』

1:49 アドニヤの客たちはみな身震いして立ち上がり、それぞれ帰途についた。

1:50 アドニヤもソロモンを恐れて立ち上がり、行って祭壇の角をつかんだ。

1:51 そのとき、ソロモンに次のような知らせがあった。「アドニヤはソロモン王を恐れ、祭壇の角をしっかりと握って、『ソロモン王がまず、このしもべを剣で殺さないと私に誓ってくださるよう』と断言しています。」

1:52 すると、ソロモンは言った。「彼が立派な人物であれば、その髪の毛一本も地に落ちることはない。しかし、彼のうちに悪が見つければ、彼は死ななければならない。」

1:53 それから、ソロモン王は人を遣わして、アドニヤを祭壇から降ろさせた。アドニヤが来てソロモン王に礼をすると、ソロモンは彼に言った。「家に帰りなさい。」

アドニヤは浅はかな野心を持ちましたが、失敗しました。またその客達も彼の野心にあやかりたいと、集まりましたが、結局恥を見たのです。み

こころに叶わない行いは、そのときは勢いがあるように見えても、結局みじめに終わるのです。

人は成功できるかどうかで動くべきではなく、その動機が大切です。すなわち主を愛しているか、みこころかどうかです。

一方ソロモンは王位を確立するために敵をたたくというのではなく、あくまでも主にゆだねました。そこに勝利者の秘訣があるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

